

令和3年度 九州地方ダム等管理フォローアップ委員会

議事概要

1. 日 時：令和4年2月3日（木） 14：00～17：00
2. 開催方法：WEB会議
3. 出席者：小松委員長、嬉委員、江口委員、大矢野委員、玉泉委員、楠田委員、古賀委員、杉尾委員、馬場委員、矢野委員、（松井委員欠席）

4. 定期報告書（案）の審議結果

嘉瀬川ダム、耶馬溪ダム、平成大堰の定期報告書（案）について了承する。

委員会からの意見等は、趣旨を踏まえて定期報告書に反映し、今後の管理に活かして欲しい。

（1）嘉瀬川ダム定期報告書（案）に関するご意見等

（委員）近年激甚化する豪雨に対し、既存施設の有効活用のため利水ダムと連携し、事前放流により確保された容量が有効活用できることが望ましい。

（事務局）利水ダムの管理者や関係機関との話し合いを行っていききたい。

（委員）ダム建設時に移植した植物について、移植後の経過をモニタリングすることが重要である。

（事務局）モニタリング状況を報告できるよう取り組んでまいりたい。

（委員）嘉瀬川大堰の魚道における魚類の遡上調査データがあれば提示して頂きたい。

（事務局）近年は調査を実施していないため、調査する方向で検討していききたい。

(2) 耶馬溪ダム定期報告書(案)に関するご意見等

(委員) ダム貯水池周辺では、シカの食害が進んでいることが考えられるので、できるだけ下層植生の希少種については保護するなどの対策をして欲しい。

(事務局) 大分県がシカの分布調査を実施すると聞いており、希少種の情報を提供する等、関係機関と連携し対応していきたい。

(委員) ダム貯水池内でのアオコの発生は近年減少傾向であり、水質保全設備の運用による抑制効果やDOの鉛直分布の変化等の解析を行うと、他ダムの管理にも役立つ情報が得られると考えられる。

(3) 平成大堰定期報告書(案)に関するご意見等

(委員) 流木、マイクロプラスチックやその原因となる浮遊物の河川からの流出は、今後の環境問題の重要なトピックとなることが予想され、平成大堰はそれを抑える場所に位置していることから、これらのモニタリングについて検討を始めることが期待される。

(4) その他、定期報告書(案)に共通するご意見等

(委員) 各ダムで建設時に植物を移植する際に、移植場所を選定する場合の統一的な考えがあれば、効率よく生態系の保全が進むのではないかと考える。

(事務局) 統一的な考えのとりまとめが可能であるか、今後の検討課題とさせて頂く。

(委員) 河川の流量変動が生物にとって重要となる場合もあることから、水資源供給のための持続的な流量の配分と生態系保全との調和についても考えていく必要がある。

(事務局) 他ダムでのフラッシュ放流による試行結果等を踏まえながら、ご意見について検討させて頂く。

(委員) 筑後川水系で試行しているフラッシュ放流の効果については、プラス面もあればマイナス面もあり、効果についての結論づけは難しい。

5. 環境モニタリング部会の実施状況報告結果

大分川ダムモニタリング部会、小石原川ダムモニタリング部会、立野ダムモニタリング部会の実施状況について報告し、了承された。

(1) 大分川ダムモニタリング部会の実施状況に関するご意見

(委員) 令和4年度以降の調査において、調査年の間隔が10年間となっている項目について、もう少し等間隔(5年に1回)での調査を検討してはどうか。

(2) 小石原川ダムモニタリング部会の実施状況に関するご意見

(委員) 環境DNAの調査は新しい技術であり、目視確認せず環境DNA調査でのみ確認された調査結果と直接採捕による調査結果は分けて整理してはどうか。

(委員) 猛禽類の保全という観点から、採餌場等の生息環境についての情報を調査することも重要である。

(3) 立野ダムモニタリング部会の実施状況に関するご意見

(委員) 流水型ダムは初めてのケースであり、後で再現ができないのは土砂動態であることから、試験湛水時を含め調査を実施した方が良い。

(委員) モニタリング部会の調査計画について事務局より説明し、了承された。

6. 年次報告書の報告結果

令和2年度の管理及び運用状況を取りまとめた年次報告書について事務局より報告し、了承された。

7. その他のご意見

(委員) フォローアップしているダムが流域治水プロジェクトでどのような役割を担うのか、フォローアップ委員会で報告をお願いしたい。

(事務局) 本日のご意見を賜り、フォローアップ委員会での報告について検討していきたい。

(委員) 各ワーキングでの質問や意見を把握したいので、委員会を開催する前にあらかじめ議事メモを送付して頂きたい。

以上